

令和4年度 人権ポスター特選作品

今年度は、県内の小学校・中学校・高等学校等から 45,807 点の応募があり、特選作品5点、優秀作品159 点が選ばれました。以下、特選作品を紹介します。



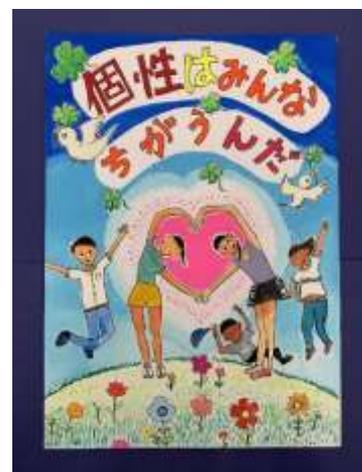
小学校 低学年の部
西予市立城川小学校

いはら あゆき
2年 伊原 歩希



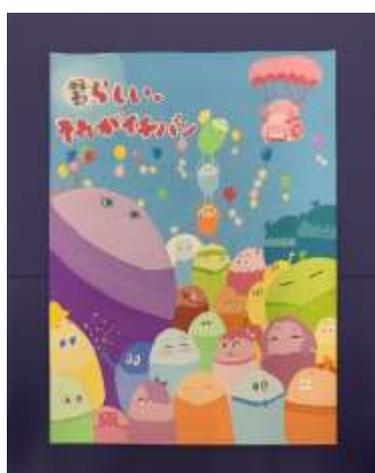
小学校 中学年の部
東温市立南吉井小学校

みやおか こうた
3年 宮岡 煌太



小学校 高学年の部
松山市立小野小学校

みよし あんな
6年 三好 杏奈



中学校の部
東温市立川内中学校

くろかわ めめ
3年 黒川 芽愛



高等学校の部
愛媛県立松山南高等学校
砥部分校

うるしはら ななほ
1年 漆原 七穂

「みんなであそぶと たのしいな」

せいよしりっしろかわしょうがっこう
西予市立城川小学校

ねん
2年

いはら あゆき
伊原 歩希

わたしのクラスは、^{おんな}女の子が5人で、^{おとこ}男の子が2人の^{ぜんぶ}ぜんぶで7人です。
こまっている^{ひと}人がいたら、

「だいじょうぶ？」

と、やさしく^{こえ}声をかけます。みんななかよしです。でも、たまに^{すこ}少しけんかもします。それでもすぐになかなかおりをします。みんな^{だい}大好きな^{とも}友だちです。
みんなであそぶとたのしいから、このポスターをかきました。

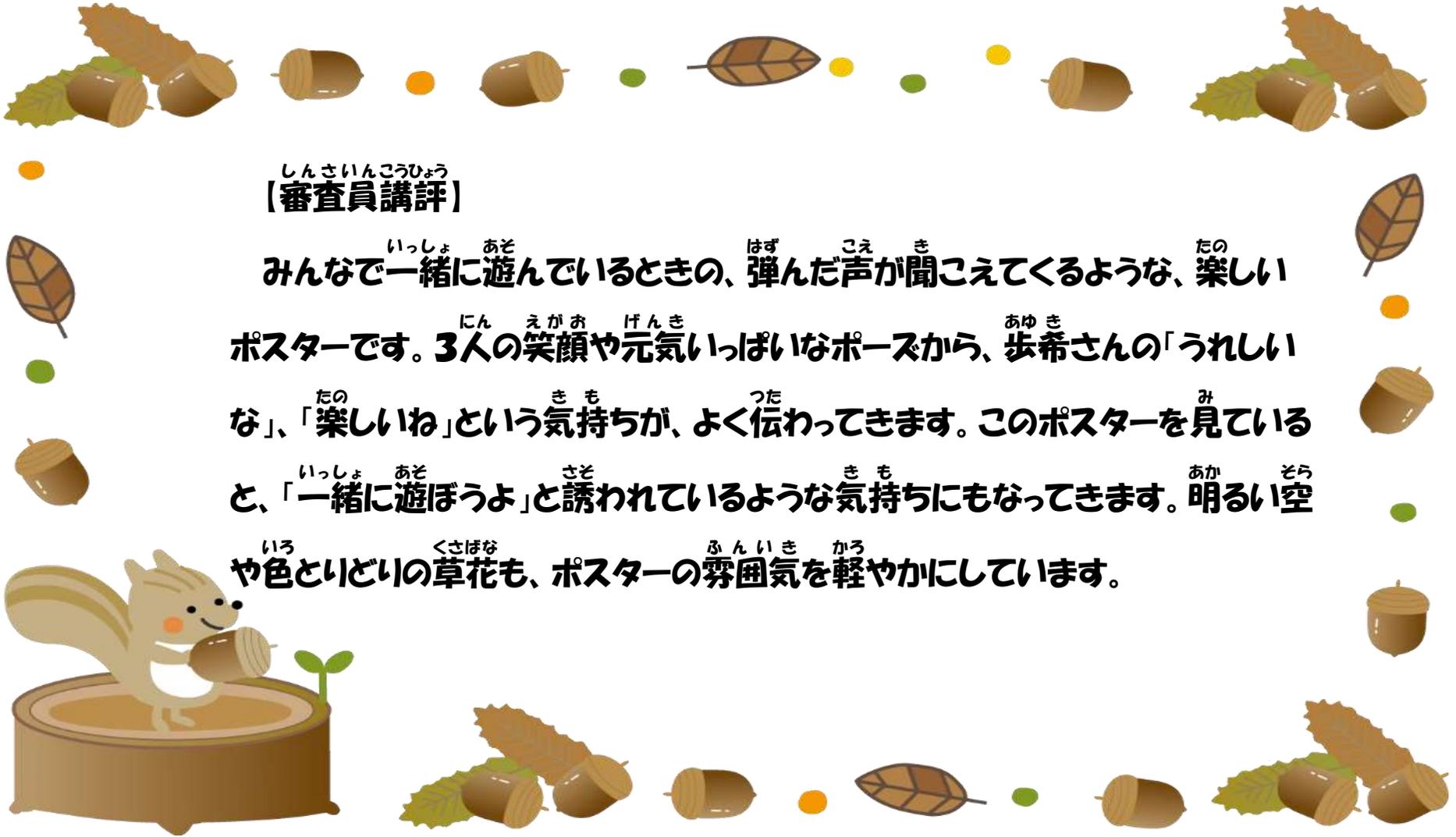
これからも^{とも}お友だちを^{たいせつ}大切にして、ずっとずーっとなかよくしていきたい
です。

令和4年度 人権尊重の意識を高めるためのポスター展

小学校低学年の部 特選 西予市立城川小学校 2年 伊原 歩希

しんさいんこうひょう
【審査員講評】

みんなで一緒に遊んでいるときの、弾んだ声が聞こえてくるような、楽しい
ポスターです。3人の笑顔や元気いっぱいなポーズから、歩希さんの「うれしい
な」、「楽しいね」という気持ちが、よく伝わってきます。このポスターを見ている
と、「一緒に遊ぼうよ」と誘われているような気持ちにもなってきます。明るい空
や色とりどりの草花も、ポスターの雰囲気をはげやかにしています。



「なかよしの まほうの声かけ 自分から」

とうおんしり つみなみよしいしょうがっこう
東温市立南吉井小学校

こえ
ねん
3年

みや おか
宮岡

じ ぶん
こう た
煌太

「いっしょに遊ぼう。」これは、^{あそ}昼休み、いつも遊んでいる友だちがいな
いときにかけてもらった^{ことば}言葉です。一人ぼっちのときは、さみしくて、つま
らなかったけれど、この^{ことば}言葉のおかげでうれしくて、^{こころ}心がぽかぽかになり
ました。その^こ子たちとも、すぐになかよくなりました。だからぼくも、おに
ごっこに入りた^{はい}そうにしている^こ子がいたとき、「いっしょにする？」と自分か
ら^{こえ}声をかけました。

^{ひと}人をしあわせにできるまほうの^{ことば}言葉はたくさんあります。「ありがとう。」
「すごいね。」「すてきだね。」「いっしょに^{あそ}遊ぼう。」これからもぼくは、こ
のまほうの^{ことば}言葉を使いつづ^{つか}けたいです。そして、みんなも自分から^{こえ}声をかけ
て、^{とも}たくさんの^{かお}友だちをえ顔にしてほしいです。

令和4年度 人権尊重の意識を高めるためのポスター展

小学校中学年の部 特選 東温市立南吉井小学校 3年 宮岡 煌太

しんさいんこうひょう
【審査員講評】

「『自分から』声をかけるよ」「『自分から』声をかけてみようよ」という、人を思いやる煌太さんの優しい気持ちが、画面いっぱい広がっているすてきなポスターです。「まほうの声かけ」は、その場にいるみんなの気持ちを温かくしてくれます。一つ一つの色や形、表し方のイメージを大切にしながら、ぬくもりを感じる雰囲気にとどめることができます。



「みんなでつくる明るい未来」
まつやましりつ おのしょうがっこう
松山市立小野小学校 6年 三好 杏奈

せかい いま せんそう くに し わたし
世界には今、戦争をしている国があります。そのことを知ったとき、私
はとても悲しくなりました。どうして同じ人間同士で攻撃し合っているの
だろう、みんなが仲よくすればいいのに、と思いました。このポスターを通
して、肌の色や髪型、服装はちがうけど、みんな同じ人間だということを伝
えたいです。国境をこえて、みんなが当たり前前に笑顔で暮らすことのでき
る世界をつかっていきたいと強く思いました。そんな思いが伝わるよう、
工夫したところが二つあります。一つ目は、いろいろな国の人みんながジ
ャンプすることで明るい未来を表したところです。二つ目は、ハートの色
を少しずつ変えたところです。ハートはみんなの心です。温かい気持ち
でいっぱいの世界になるように、丁寧に色をぬっていきました。

令和4年度 人権尊重の意識を高めるためのポスター展

小学校中学年の部 特選 松山市立小野小学校6年 三好 杏奈

審査員講評

自由で伸びやかな人物たちがつくいだす朗らかな雰囲気から、「個性はみんな違うんだ」「違うから楽しいんだ」という杏奈さんの素直なメッセージが、心地よく伝わってきます。丸い地平線や、明るい色調のグラデーション、カーブを描いて配置された文字、舞い上がるようなクローバーの葉など、一つ一つの色や形の工夫がそれぞれ響き合って、私たちを取り巻く世界の広さを感じさせてくれます。



「君が君でいるために」

とうおんしり つかわうちちゅうがっこう ねん くる かわ め め
東温市立川内中学校 3年 黒川 芽愛

わたし せかいじゅう だれ じぶん ねが
私は、世界中の誰もが、自分らしくいられることを願っています。しか
し、世界中には、まだたくさんの方が自分の好きな自分であることで、他人
に嫌われるかもしれないという気持ちをもつ人が多くいます。そのため、
自分の好きな自分になっても、そのことを他人にからかわれて、自分を好き
ではなくなってしまうことがあります。

わたし せかいじゅう すこ じぶん い
私は、「世界中のみんなが少しでも自分らしく生きていけるように」「お
互いの個性を理解して、受け入れられる人が少しでも増えるように」「誰も
が勇気を持てるように」という三つの想いを込めてポスターを制作しまし
た。このポスターが、見る人にとって少しでも自分に対する自信に繋がっ
たり、自分のことが好きになったりするきっかけになれば嬉しいです。

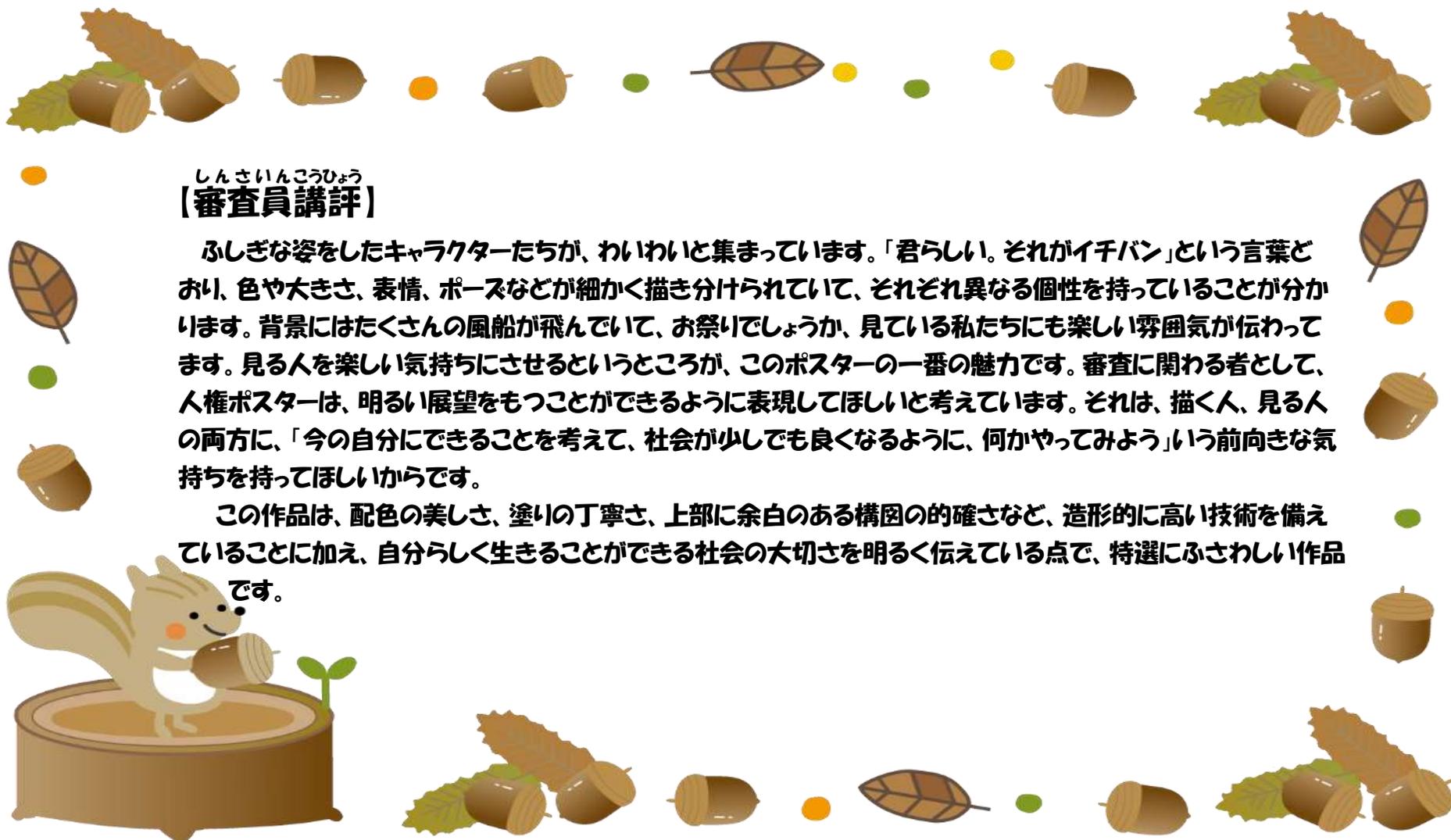
令和4年度 人権尊重の意識を高めるためのポスター展

中学校の部 特選 東温市立川内中学校 3年 黒川 芽愛

しんさいんこうひょう 【審査員講評】

ふしぎな姿をしたキャラクターたちが、わいわいと集まっています。「君らしい。それがイチバン」という言葉どおり、色や大きさ、表情、ポーズなどが細かく描き分けられていて、それぞれ異なる個性を持っていることが分かります。背景にはたくさんの風船が飛んでいて、お祭りでしょうか、見ている私たちにも楽しい雰囲気が伝わってきます。見る人を楽しい気持ちにさせるというのが、このポスターの一番の魅力です。審査に関わる者として、人権ポスターは、明るい展望をもつことができるように表現してほしいと考えています。それは、描く人、見る人の両方に、「今の自分にできることを考えて、社会が少しでも良くなるように、何かやってみよう」という前向きな気持ちを持ってほしいからです。

この作品は、配色の美しさ、塗りの丁寧さ、上部に余白のある構図の的確さなど、造形的に高い技術を備えていることに加え、自分らしく生きることができる社会の大切さを明るく伝えている点で、特選にふさわしい作品です。



「あなたは幸せになる権利がある」

えひめけんりつまつやまみなみこうとうがっこう とべぶんこう ねん うるしはら ななほ
愛媛県立松山南高等学校 砥部分校 1年 漆原 七穂

どんな個性こせいを持っていてもどんな場所ばしょに生まれても、幸せしあわになる権利けんりは
みんなに平等びやうどうにある。そんなメッセージつたを伝えたくて、このポスターえがを描き
ました。赤ちゃんあかの指ゆびから伸びた糸いとが描き出す人だや街まちは未来みらいの社会しゃかいです。こ
の赤ちゃんあかが暮らす未来くが「様々な人みらいがともに幸せさまざまに暮らせる温かいひと
社会しあわ」であることを伝えられるように、画面くを暖色系あたたかの優しい色合いあたたかで構成
しました。将来しょうらい、この子こが誰だれを好きすになっても受け入れられる社会ういで、伸び
やかに生きられる。赤ちゃんあかの手てを包み込む大人おとなの手ては「あなたの幸せしあわを願
っている」という意味いみを含めています。差別さべつや偏見へんけんのない、「誰もが当たり前だれあま
に幸せしあわになれる」社会しゃかい。そんな社会しゃかいになったら素敵すてきだと思いませんか。おも

令和4年度 人権尊重の意識を高めるためのポスター展

高等学校の部 特選 愛媛県立松山南高等学校砥部分校 1年 漆原 七穂

しんさいんこうひょう 【審査員講評】

水彩風に描かれた子どもと、デザイン的に描かれた町並みの対比が目を引く作品です。作品中では、子どもの小さな手に、子の健やかな成長を願う大人の手が添えられ、二つの手から伸びた糸は、だれもが自分らしく幸福を追求できる理想の社会につながっています。こうした画面構成を見るだけで、作者が画材の扱いに習熟しており、アイデアを作品に落とし込む練習を地道に積み重ねてきたことが分かります。私たちは多様な価値観のなかで生きていますから、何を幸せとするかは人それぞれです。作者は、理想の社会として、省略化した人間や町並みを優しい色調で描き、あえて「幸せ」の形を具体的に描きすぎないように工夫しています。こうした配慮からは、作者の人権に対する視野の広さ、人間に対するまなざしの温かさを感じ取ることができ、作品の魅力さをさらに深めています。小中高と継続的に学ぶ中で、人権の諸課題に関する自分なりの考えを深めていること、また、その考えを作品に生かすために、造形的な力を磨いてきたことなど、作者の人的魅力と努力がうかがえる、特選にふさわしい作品です。

